



平成27年4月2日 大阪城ホール

「世界適塾」 物事の本質を見極め調和ある多様性を創造

21世紀のグローバル社会において大学に求められている新たな役割は、「学問による調和ある多様性の創造」であると考えます。地球上には、言語、慣習、文化、民族、宗教、政治、国家など様々な多様性が存在します。人類の発展はこの多様性によって支えられてきました。一方で多様性が生み出す様々なコンフリクトはグローバル社会においては障壁となり、紛争や戦争を引き起こすことすらあります。大学は学問という人類共通言語を有しています。学問はスポーツや芸術、あるいは経済活動等と並んでこの障壁を乗り越える大きな力となります。学問を介する人と人との交流により、多様性の維持とそれが生み出す障壁の克服という、相反することの両立が可能となります。大阪大学は学問の府として、「物事の本質を見極め調和ある多様性を創造」することにより、21世紀のグローバル社会に大きく貢献していきます。

総長 平野 俊夫

世界適塾入試の実施

平成29年度から大阪大学の全学部で世界適塾入試を実施します。この新たな入試では、各学部のアドミッション・ポリシーにより学部毎の違いはありますが、センター試験で基礎学力を担保した上で高校時代の課題研究・課外活動・ボランティア活動・海外留学体験などの成果報告書／調査書や実践英語能力を見る外部検定試験の成績などに加えて口頭試問により多面的・総合的に選抜することにより、グローバル社会で活躍できる多様な能力を持つ意欲的で優秀な人材を集めることにしています。世界適塾入試の導入に伴い、平成29年度から個別学力検査の後期日程は募集を停止します。

日本の教育は高度成長を支えるために均質な能力を備えた人材を養成してきましたが、グローバル化が進み変化の激しい時代になり、自ら主体的に課題を発見し、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質・能力を育ていく教育が求められるようになりました。初・中等教育がそのように変わりつつある中、大学教育もこれまでの講義中心の授業から課外学習を課す授業や課題発見・課題追求型の対話型授業に移行しつつあります。変わりつつある高校教育と大学教育を繋ぐ大学入学者選抜方法も、これまでのペーパーテストから総合的選抜に移行する必要がある、世界適塾入試もそのような流れを汲むものです。

これまでも基礎工学部の推薦入試、理学部の研究奨励AO入試や工学部・基礎工学部・理学部共同実施の国際科学オリンピックAO入試などが行われていましたが、グローバル社会で活躍できる多様な能力を持つ優秀で意欲的な人材を集める世界適塾入試はその試みを全学部に拡大するものです。

世界適塾入試では平成29年度から3年かけて学部学生の10%にあたる約350名を募集する予定です。外国人留学生を海外募集・選抜するために平成26年度にグローバルアドミッションズオフィス（GAO）を設置しましたが、平成29年度からは各学部とGAOが協力して世界適塾入試を実施することになっており、平成27年度、28年度にGAOを強化して選抜方法の調査・研究・開発にあたることにしています。

世界適塾入試の概要については、本学公式ウェブページに掲載しています。

理事・副学長 東島 清

ロシア科学アカデミーと学術交流協定を締結

ロシア科学アカデミーと大阪大学の間で大学間学術交流協定を、ロシア科学アカデミー高温共同研究所と未来戦略機構の間で、部局間学術交流協定を、平成27年2月9日付けで締結しました。

これまでも、核物理研究センター等を中心にロシア科学アカデミーとは共同研究が行われておりましたが、昨年10月に設置しました大阪大学未来戦略光科学連携センターでのパワーレーザー設備の本格稼働により、今後より一層の国際共同研究と関連する世界に通じる人材育成を推進するため、大学間学術交流協定を締結する運びとなったものです。

また、ロシア科学アカデミー高温共同研究所とは、プラズマ科学分野における共同研究はもちろんのこと、平成26年度には同研究所の外国人科学者を任期無し年俸制教員として本学で初めて採用する等、今回の部局間学術交流協定の締結により、益々有益な交流、効果が得られるものと期待されています。

理事・副学長 相本 三郎



記者会見（3月3日）

国際共同研究促進プログラムを選定（平成27年度開始プログラム）

大阪大学の未来戦略の一環として、最先端の研究を展開している外国人研究者とそのグループを本学に招へいし、本学の研究力を一層高めるとともに、グローバル化を促進するための事業として、平成25年度に「国際共同研究促進プログラム」を創設し、既に22件のプログラムがスタートしています。この度、平成27年度開始分のプログラムの公募を行い、14件のプログラムを採択しました。

選定されたプログラムでは、外国人研究者の旅費・謝金、教職員・学生の旅費、研究員の雇用経費などを、最長3年間支援します。本共同研究が定着・発展し、学内に多くの国際ジョイントラボが立ち上がることを期待しています。

今回選定した14件のプログラムの研究代表者は以下のとおりです。

国際共同研究促進プログラム 採択一覧	
研究代表者	外国人研究者所属機関（国名）
鄭 聖汝（文学研究科講師）	ライス大学（アメリカ）
友部 謙一（経済学研究科教授）	復旦大学（中国）・カリフォルニア大学アーヴァイン校（アメリカ）
松野 健治（理学研究科教授）	マンチェスター大学（イギリス）
村田 道雄（理学研究科教授）	オーボアカデミ大学（フィンランド）
坂田 泰史（医学系研究科教授）	キングス・カレッジ・ロンドン（イギリス）
岡田 欣晃（薬学研究科准教授）	ハーバード大学医学大学院／ベイスラエルメディカルセンター（アメリカ）
藤原 康文（工学研究科教授）	アムステルダム大学（オランダ）
茅田 博一（基礎工学研究科教授／附属未来研究推進センター長）	ソウル大学校（韓国）
宮崎 文夫（基礎工学研究科教授）	マサチューセッツ工科大学（アメリカ）
倉橋 隆（生命機能研究科教授）	カリフォルニア大学デービス校（アメリカ）
菅沼 克昭（産業科学研究所教授）	北京工業大学（中国）
八木 康史（産業科学研究所長／教授）	カーネギーメロン大学（アメリカ）
民井 淳（核物理研究センター准教授）	ダルムシュタット工科大学（ドイツ）
斗内 政吉（レーザーエネルギー学研究センター教授）	ライス大学（アメリカ）

各プログラムの研究概要は、本学公式ウェブページに掲載しています。

平成25年度、平成26年度の採択プログラムについても、ウェブページをご覧ください。

理事・副学長 相本 三郎

平成27年度国立大学運営費交付金新規事業

平成27年度概算要求については、本学の教育研究活動のさらなる充実・発展に資する事業の実施のための特別経費を要求しておりましたが、そのうち「プロジェクト分」3件、「教育研究組織の再編成を見据えた構想プロジェクト」1件、「機能強化関連プロジェクト」1件が新規事業として採択されました。

【プロジェクト分】

医・工・情報融合領域におけるグローバル産学連携人材育成プログラムの構築（臨床医工学融合研究教育センター）
創薬・医療機器開発・再生医療の実用化を3本柱とする大阪発医療イノベーションの実現を目指し、領域横断的に必要な教員を配置して国際医工情報センターを設置し、革新的なグローバル産業を創生するリーダー育成教育機能を強化する。

複雑システム解析のための次世代数理・データ科学人材育成（金融・保険教育研究センター）
グローバル化されたカリキュラムを組み入れた超領域型副専攻プログラム群を提供し、世界レベルの先端金融・保険数理技術や先進数理・データ科学技術を駆使して、分野横断型の融合研究・開発ができるグローバル人材を輩出する。

医理連携による進行がん治療のための国際医療拠点形成事業（理学研究科・医学系研究科・核物理研究センター）
有効な治療法のない進行がんを対象とするα線内用療法（放射線核種を投与し、体内からがんを治療）を開発する。本療法を実施する国際医療拠点を形成し、新たな医療法の国際標準化、医療イノベーション創出（新放射線医薬・医療機器の開発）を目指す。

【教育研究組織の再編成を見据えた構想プロジェクト】

教育組織の再編を見据えたグローバルな入学者選抜方法の調査研究（グローバルアドミッションズオフィス）
世界適塾を目指す本学が、国境を越えて才能ある人材を受け入れ、グローバル人材として世界に送り出すためには、単に学力のみならず意欲や学問への志も含めて、多面的・総合的かつ丁寧な選考を行う必要がある、その実現のため、グローバルアドミッションズオフィスにおいて、国内外の大学の関連組織やノウハウの調査研究、分析等を行う。

【機能強化関連プロジェクト】

国際的に卓越したヒトエピゲノム環境因子解明研究の拠点形成～健やかな社会と健康長寿の実現に向けて～（医学系研究科 保健学科）
大阪大学が構築した世界初の体系的な双生児研究基盤を基に、疾病等の発症・変化を惹起するヒトエピゲノム環境因子の機序解明を目指したアジアにおける研究拠点を形成する。ヒトエピゲノム環境因子の解明を通じて、予防医療等を実現し健康長寿・健康社会の実現を目指す。

理事・副学長 恵比須 繁之

平成26年度部局長・事務(部)長裁量未来戦略経費の配分部局決定

大阪大学では、部局マネジメントの充実を図るための支援策として平成25年度から、本学の未来戦略実現のために積極的に取組み優れた成果をあげた部局や事務部等に対して、裁量経費を配分する制度「部局長裁量未来戦略経費」及び「事務(部)長裁量未来戦略経費」を創設しています。

今年度は、「グローバル化」を重点テーマに、各部局長、事務(部)長が知恵を絞り真剣に取り組んだ結果、部局長裁量未来戦略経費に18件、事務(部)長裁量未来戦略経費に15件もの取組成果が集まりました。

その中から、先進的又は特色のある、優れた成果を上げた取組を実施した6部局長、1事務(部)長の部局に対して、未来戦略経費の配分を決定しました。

配分が決定した部局の取組成果は、学内全体会議の場で報告いただくこととしており、全学において取組成果とノウハウの共有による波及効果が期待されます。

なお、平成27年度も本制度を実施し部局マネジメントを支援していく予定ですので、各部局等におかれましても引き続き努力いただきますようお願いします。

配分部局・取組名は下記のとおりです。

理事 大木 高仁

○部局長裁量未来戦略経費(6部局) 配分額：1件500万円

部局等名	取組名
文学研究科	人文学クラスターの創設による国際共同研究の推進
人間科学研究科	部局運営における先進的取り組み成果(観点:グローバル化)
経済学研究科	国際化・グローバル化のための国際交流・国際共同研究活動の活性化・強化 ースーパー・グローバル大学への布石ー
医学部附属病院	阪大病院「国際医療センター」新設による医療のグローバル化
外国語学部	「世界適塾:海外派遣学生数倍増」への取組ー言葉を究めて世界にはばたくー
国際教育交流センター	グローバルキャンパス4WD(Forward)戦略

○事務(部)長裁量未来戦略経費(1部局) 配分額：1件100万円

部局等名	取組名
医学部附属病院	医療材料価格交渉支援を利用した契約担当職員による継続的な契約交渉の取り組み

新たな称号「大阪大学Global Alumni Fellow」第1号を授与

2月7日(土)、タイ王国バンコク市内で開催された「大阪大学タイ同窓会」(約80名の卒業生等が参加)において、新たな称号「Global Alumni Fellow」の授与式を行い、第1号として、大阪大学タイ同窓会の会長を務めるDr. Itthichai Arungsrisangchai(2003年、工学博士)に授与を行いました。

「Global Alumni Fellow」は、世界の学術界で活躍する大阪大学ファミリーとの関係強化とネットワーク構築、本学の国際的プレゼンスの向上を目的として新たに創設した称号です。

海外の大学等で教授等として活躍する卒業生や元教職員を対象に、今後も順次授与を進める予定です。

理事・副学長 大竹 文雄

理事・副学長 岡村 康行



Global Alumni Fellow 授与式

新・男女共同参画推進オフィスの設置

大阪大学が持続的な発展を遂げていくためには、その原動力となる「人」、すなわち大学の構成員の「多様性」を根付かせ、確保することが不可欠となります。その最も身近な源泉である「性別」について、大阪大学では、これまでも男性や女性といったことにかかわらず能力や個性を最大限発揮できる大学づくりを進めてきましたが、残念ながら、必ずしもその取組が、構成員の皆様方の意識や取組といった面で浸透して全学的な広がりを見せているとは言えないのが現状です。

このため、これまでの反省に立ちつつ、取組をさらに強化していくために、このたび、副学長を室長とし、各部局の教授を室員とする新たな「男女共同参画推進オフィス」を設置しました。近吹田キャンパスに開園予定の病児・病後児保育室「あおぞら」のほか、今後、このオフィスが中心となって、皆様方の声に応える取組を実行に移していきますので、引き続きのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

理事 大木 高仁



大阪大学の男女共同参画事業の一つである「大阪大学保育園」のキャラクター「すくたん」をモチーフに用い、「すくたん」のシルエットと大阪大学のイチョウマークを組み合わせたものを男女共同参画推進オフィスのロゴとした。

大阪府能勢町と連携協力に関する包括協定書を締結

2月17日(火)、本学と大阪府能勢町は連携協力に関する包括協定を締結しました。各々が有する資源の活用を図り、教育、研究、文化の振興、まちづくり等の様々な分野において活動の充実を図るとともに、地域連携を推進し、両者の発展および活性化に寄与することを目的としたものです。

以前から、能勢町の浄瑠璃を、本学文学研究科の演劇学の講義で取り入れたり、能勢町中学生の英語授業に本学留学生を派遣するなどの事業を進めるなど、相互交流が進められてきましたが、能勢町の自然豊かな里山フィールドを、本学の留学生や構成員が日本文化の再発見の場として活用したり、日本の地方自治体が抱える少子高齢化、教育問題などの調査・研究のケーススタディとするなど、様々な取り組みを進める基盤ができました。

理事・副学長 岡村 康行



平野俊夫総長(左)と山口禎能勢町長

中之島センターの特別減免制度を本格実施

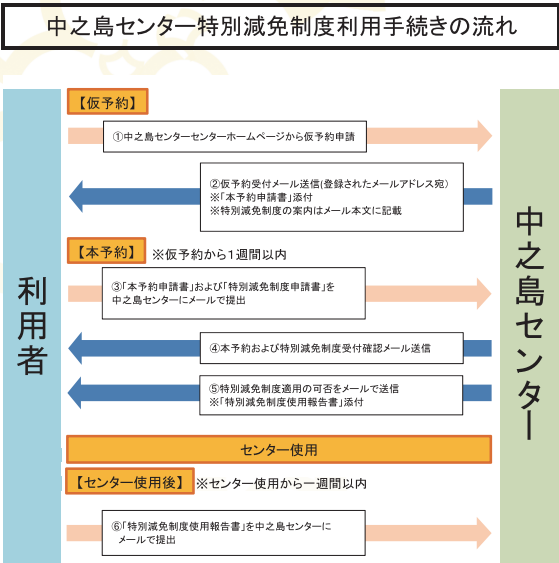
中之島センターの活用機会を増やすために「特別減免制度」をはじめます。

本学教職員の研究会や勉強会、卒業生による同窓会、学生の課外活動団体による活動など、大阪大学関係者が定められた目的に沿って、中之島センターを使用する場合、その使用料を減免するものです。

従来、中之島センターでは「特別割引制度」を試行的に実施していましたが、平成27年4月から「特別減免制度」として本格実施することとしました。皆様に中之島センターを積極的に活用していただくことで、中之島センターがさらに活性化し、大阪大学のブランドを高めることにもつなげるものです。

利用者に快適に使用いただける準備を整えて、ご利用をお待ちしております。詳しくは、大阪大学中之島センターホームページをご覧ください。

理事・副学長 岡村 康行



多様な大学職員研修を実施

12月19日(金)、1月22日(木)、職員向け研修として、「大阪大学情報発信力トレーニングプログラム」を実施しました。

第1ラウンド「大阪大学・ミーツ・ブランド」では、どうすれば大学のブランドを確立できるのか、ブランドの在り方や阪大での実践について、丸の内ブランドフォーラム代表の片平秀貴氏と、本学クリエイティブユニットの伊藤雄一准教授による講演が行われました。

第2ラウンド「決裁がおりた!通る企画の作り方。」では、本学未来戦略機構次世代研究型総合大学研究室の平井啓准教授を講師に招き、本学で実施されたイベントを事例にグループワークを行いました。誰に、何を、どのように届けて、どう思わせたいのかデザインし、相手に納得させる企画について活発な議論がされました。

1月6日(火)、本学初の試みとなる私立大学との合同研修「大阪大学×同志社大学合同SDワークショップ」を同志社大学今出川キャンパスで実施し、両大学の事務職員計41名が、国立・私立の垣根を越え、職場でのキャリア形成について様々な意見交換を行いました。

本学教育学習支援センターの佐藤浩章副センター長による講義『プロフェッショナル大学職員への道～職員に求められる能力とは何か～』の後、グループ毎に「前例踏襲主義」「大学の将来とビジョンの非共有」など、各職場における人材育成に関わる課題を挙げ、改善策を話し合ったほか、評価制度、キャリアパスの違いなど、様々な知見を共有することができました。

PMTは今後も、意識変革のための様々な大学職員研修を企画し、大学の未来にコミットする職員の育成に努めていきます。

総長室 PMT



大阪大学 × 同志社大学合同 SD ワークショップ

人 事

新理事補佐

平成27年4月1日	飯國洋二(基礎工学研究科教授)	ハラスメント専任担当
	中谷和彦(産業科学研究所教授)	広報・社学連携担当
	平田收正(薬学研究科教授)	教育担当
	松繁寿和(国際公共政策研究科教授)	教育担当
	水島郁子(高等司法研究科教授)	男女共同参画担当

新部局長

平成27年4月1日	医学系研究科長・医学部長	澤芳樹
	歯学研究科長・歯学部長	天野敦雄
	言語文化研究科長	木村茂雄
	社会経済研究所長	石田潤一郎
	接合科学研究所長	田中学
	低温センター長	掛下知行
	国際医工情報センター長	八木哲也
	ナノサイエンスデザイン教育研究センター長	戸部義人

新施設長

平成27年4月1日	医学系研究科附属共同研究実習センター長	河原行郎
	医学系研究科附属ツインリサーチセンター長	岩谷良則
	医学系研究科附属最先端医療イノベーションセンター長	高島成二
	工学研究科附属高度人材育成センター長	神戸宣明
	接合科学研究所附属スマートプロセス研究センター長	節原裕一

新教授

平成27年2月16日	村上靖彦	【所 属】人間科学研究科 人間科学専攻基礎人間科学講座 【最終学歴】H12.2 バリ第7大学大学院臨床人間科学研究科博士課程修了	【前職】本学准教授
	西野邦彦	【所 属】産業科学研究所 第3研究部門(生体・分子科学系) 【最終学歴】H15.3 大阪大学大学院薬学研究科博士後期課程修了	【前職】本学准教授
平成27年4月1日	山上浩嗣	【所 属】文学研究科 文化表現論専攻西洋文学・語学講座 【最終学歴】H22.2 バリ第4＝ソルボンヌ大学博士課程修了	【前職】本学准教授
	BURDELSKI MATTHEW JAMES	【所 属】文学研究科 文化表現論専攻日本語学講座 【最終学歴】H18.6 カリフォルニア大学ロサンゼルス校大学院東アジア言語文化研究科博士課程修了	【前職】本学准教授
	佐藤廉也	【所 属】文学研究科 文化動態論専攻共生文明論講座 【最終学歴】H11.3 京都大学大学院文学研究科博士後期課程修了	【前職】九州大学
	大谷順子	【所 属】人間科学研究科 グローバル人間学専攻地域研究講座 【最終学歴】H15.9 ロンドン大学大学院博士課程修了	【前職】本学准教授
	高橋篤史	【所 属】理学研究科 数学専攻代数学講座 【最終学歴】H10.3 京都大学大学院理学研究科修士課程修了	【前職】本学准教授
	山ノ井克俊	【所 属】理学研究科 数学専攻大域数理学講座 【最終学歴】H12.3 京都大学大学院理工学研究科博士後期課程修了	【前職】東京工業大学
	高木慎吾	【所 属】理学研究科 生物科学専攻細胞生物学講座 【最終学歴】S61.3 大阪大学大学院理学研究科博士後期課程修了	【前職】本学准教授
	昆隆英	【所 属】理学研究科 生物科学専攻生物物質学講座 【最終学歴】H12.3 東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了	【前職】法政大学
	酒井規夫	【所 属】医学系研究科 保健学専攻生命育成看護科学講座 【最終学歴】H6.3 大阪大学大学院医学研究科博士課程修了	【前職】本学准教授
	山崎あけみ	【所 属】医学系研究科 保健学専攻生命育成看護科学講座 【最終学歴】H15.6 カリフォルニア大学サンフランシスコ校大学院看護学研究科博士後期課程修了	【前職】上智大学